



今年創業110周年を迎えるにあたり、3つのキーワード「diversity(多様性)、fairness(公正)、responsibility(責任)」を従業員の行動規範として掲げた。

パッシブハウスの違い:断熱材の厚さ



パッシブハウス:世界最高水準の省エネ基準で設計・施工された住まい。気密性・断熱性といった建物自体の性能を高めることにより「夏は涼しく、冬は暖かい」快適な住まいで経済性に優れています。



# 働き方改革にまで繋げ 持続可能な経営を実現

明治40年の創業以来、倉敷の地で貫して「木」を商材として扱ってきた倉敷木材株式会社。独自に環境活動を続けてきた中で、2009年エコアクション21の認証を取得。代表取締役社長の大久保陽平さんに取り組みについて聞きました。

倉敷木材株式会社

代表取締役社長

おおく ぼ しょうへい  
大久保 陽平さん



## 「エコアクション21」に取り組み始めたきっかけは?

当社の環境に対する思いは創業した時代に遡ります。当時は高梁川の水運が南北物流の大動脈でした。高梁川流域の水や暮らし、環境に対する配慮は、岡山県産の木材を扱ってきた当社に深く根差しており、森や木材について改めて知ってもらおうと「ふるさと岡山の森を訪ねる旅」や「暮らしと木のフェア」を開催し続けてきました。そして2007年頃、エコアクション21の制度を知り、取り組みを始めたのです。

## 「現在、環境にやさしい「究極の家づくり」に挑戦されていますね。」

「環境を考えた木造住宅」を基本とする住宅事業部は、県産材を使用した長期優良住宅の設計・施工に2008年から取り組んでいます。エコアクション21を始めてからは、



持続的利用が可能な資源である木材の素晴らしさや、森の大切さを伝えるイベントを継続して行っています。

## 「取り組みを労働時間の短縮や生産性の向上にも繋げられています。」

長時間労働は社員の健康を損ない、企業の成長や環境にも悪影響を与えます。私はエコアクション21の活動を通し、働き方に対する意識改革にも取り組みました。夕方5時以降の社内会議の廃止や有給休暇の計画的付与なども行い、これらの取り組みにより、前年度より社員の労働時間1時間あたりの売上げが大きく向上しました。また、4S活動や業務分担の見直しで生産性も向上し、顧客からも評価する声を頂いております。環境活動が、コスト削減や働き方の改革、顧客満足度の向上にも繋がっていることを社員みんなで実感しています。

## 「これから目指すところは?」

取り組みを更に発展させ、業務の効率化や生産性、顧客満足度を

向上させていきたいです。

これから本格的な人口減少社会を迎える中、中小企業は人手不足により事業の継続すら危うくなる状況が迫っています。エコアクション21の活動を通じた環境コミュニケーション、環境負荷の低減によるコストダウンや働き方の改革は、今後消費者だけでなく、就職先として選ばれる、重要な企業評価の指標にもなるのではないのでしょうか。

## 倉敷木材株式会社

所在地:〒710-8581 倉敷市中島1000-1  
従業員数:60名 認証・登録日:2009年7月31日  
創業以来1世紀にわたり、再生可能な資源としての木と共にある暮らしを提案し続け、持続可能な社会づくりに貢献している。

## エコアクション21

環境省が策定したガイドラインに基づいて環境経営のためのしくみを構築・運用している事業者を認証・登録する制度です。



エコアクション21地域事務局  
岡山県環境保全事業団  
〒701-0212 岡山市南区内尾665-1  
Tel 086-298-2122 Fax 086-298-2496  
Mail ea21@kankyo.or.jp

<http://www.kankyo.or.jp>